宮城は現在(いま)も現実(いま)に立ち向かう。

2016.11.11

NOW IS.

Vol. 7

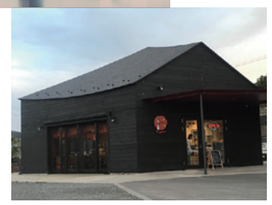
毎月11日発行

ナウイズ

in気仙沼

撮影地：気仙沼市／気仙沼漁港

海の見える窓辺で
「カフェも俳優業と同じ。いつもお客さんがどんな顔するかなって考えてます」。



K-port
建築家・伊東豊雄さんが設計した建物は黒。スタイリッシュな姿です。

名前の由来は「心の港」
「戻ってきたいと思ったときに、いつでも戻れる場所にしたい」という気持ちがこもっています。

海の市
震災前は1年間で100万人の人出があった施設。レストランや物産店などがあります。

気仙沼さかなの駅
卸業を営む店が小売りに業態を変えてスタート。「気仙沼の台所」としてにぎわっています。

市中心部の街並み（安波山より）
港や水産施設の整備が徐々に進む一方で、まだ茶色の更地も目立ちます。

磯屋水産の安藤さんと店先で

新しい気仙沼が着心地のいい服のような街になったら。

NOW IS. | Inter-View | KESENNUMA 気仙沼

「夢は気仙沼の永住権です」。渡辺謙さんが見る気仙沼。

みんなが集う磁力をもったカフェ

「この景色を見ていると、長崎の出島とか、イタリアの港町とかにいるような気がして。なんとなく、街の視線が世界を向いているような感じがするんです。気仙沼って、なんだかいいでしょう？」。久しぶりの秋晴れ。高い空の色を映したように真っ青な海を眺めながら、そう話すのは、俳優の渡辺謙さん。

平成25年11月に、気仙沼市内湾地区で自身がオーナーのカフェ『K-port』をオープンしました。数か月に1度は店に出て、パンケーキを焼いたり、フロアの仕事をしたり。「店のことを考えるのが、好きなんです」と顔をほころばせます。

渡辺さんは平成23年4月に石巻を訪れたのを皮切りに、東北沿岸部の避難所など、20か所以上を訪問しました。「どこに行っても喜んでくれる。でも、もしかしたら、もっとほかにやれることがあるんじゃないかと思ったんです」。行政でも国でもなく、自分たちだからできることはなにか。

「気仙沼に何回か来るうちに、信頼できる友達がたくさんできた。その友達に聞いて歩いたら、『街にみんなが集まれる場所がなくなった』って言うんです。人を集める磁力があって、いつ行っても誰かいるところ。そう考えてたどり着いたのがカフェでした」。窓からは海が見え、小さな子ども向けのプレイスペースが。街の人や若者が来る機会をつくれたら、とイベントやライブも開催しています。

「大きな花火だけ打ち上げて、あとはよろしく、にはしたくなかった。だからはじめは、できるだけちゃんと店に出るようにしました」。あわただしい1年目がすぎ、少ししてから、ふと気が付いたと言います。「自分は、復興支援とかサポートとか、そういう気持ちで来ていないなぁと。ただ、気仙沼に来るのが楽しくなっていたんです」。

海と生きる人々と共に新しい街をつくる

「一緒に飲むようになって何度目だったかな、気仙沼の将来について話してたとき『それ、一緒に手伝っていいかな』って言ってくれたんです、謙さん。そりゃあうれしかったですよ」そう豪快に笑うのは、磯屋水産の安藤竜司さん。渡辺さんの「友達」の一人で、今はK-portの隣に店を構えるお隣さんであり、大家さんです。安藤さんは津波で前の社屋が被災し、仮店舗で営業していましたが、震災後に購入したこの土地で「新しい賑わいを」と新店舗をオープン。渡辺さんもそのビジョンに共感し、同じ土地にカフェをつくりました。震災から5年が経過しましたが、港の整備や販路の回復など、水産業を取り巻く環境はまだまだ難しいものがあります。「台風とか気温の変化でも海が変わっている。水揚げが厳しいときもあるけど、やらないと仕方ないからね」。安藤さんだけに限らず、気仙沼で暮らす人々は懸命に海と共に生きています。被災した地元商店が集まってオープンした「気仙沼さかなの駅」は今年で5周年。シャークミュージアムなどを併設する観光施設「海の市」も平成26年7月に全面再開しました。

気仙沼の海の幸を食べ「ここは竜宮城か！」と叫んだという渡辺さん。「かつおを生で食べ、大きなフカヒレを味わえる贅沢を、もっと気仙沼の人は意識してもいいかもね」と笑います。「被災地は、一生被災地でいる必要はない。独自性を大切にしながら、いろんな人に出会って、新しいことを取り入れて、前でも横でも斜めでもいいからどんどん動いてみたらいい。ぼくは、新しい気仙沼が、着心地のいい服のような街になったらいいな、と思うんです。遊びがあって、程よく肌になじむような。このカフェが、そういう街の一部になれたらいいな、と思っています」。

執筆：沼田佐和子

NOW IS KESENNUMA NOW IS KESENNUMA NOW IS KESENNUMA NOW IS KESENNUMA NOW IS KESENNUMA NOW IS KESENNUMA NOW IS KESENNUMA NOW IS KESENNUMA NOW IS KESENNUMA NOW IS KESENNUMA NOW IS KESENNUMA NOW IS KESENNUMA NOW IS KESENNUMA NOW IS KESENNUMA NOW IS KESENNUMA

今回訪れたまち

気仙沼市は、宮城県と岩手県の県境にあり、漁業が盛んな港町。なかでもカツオ、メカジキ、サメの水揚げは日本一を誇ります。観光PRキャラクターの「ホヤぼーや」も人気。

PROFILE

渡辺　謙（わたなべ　けん）

1959年10月21日新潟県出身。1982年に演劇集団「円」『海と毒薬』などに出演して注目され、1987年NHK大河ドラマ「独眼竜政宗」の主役に抜擢された。2015年にはニューヨークで上映された「王様と私」でトニー賞ミュージカル部門主演男優賞にノミネート。世界的な俳優として、活躍している。

VOICE of KEY PERSON
貴方がいれば大丈夫
01
この人がこの町を盛り上げてます！

大人から子供まで浪板虎舞の団結力を活かし復興を後押ししたい

離れていても心は浪板に！虎舞で支援の感謝と復興を願う

「仮設住宅などで離れて暮らしていますが、虎舞でメンバーの気持ちはひとつにつながっています」。そう話すのは会長の小野寺さん。

浪板虎舞は、気仙沼市浪板地区で約300年の歴史を誇る市指定無形民俗文化財。「虎は千里行って千里帰る」という故事にならい、出漁している家人の無事帰還と大漁を祈願する芸能として伝承されています。太鼓と笛による囃子にのせ、虎が扇で舞うあやし手の「虎バカシ」に導かれながら、高い梯子に登るなど勇壮な演舞を舞います。

浪板地区は津波で多くの家屋が被害を受けましたが、虎舞保存会では衣装の一部が被害にあっただけで、資材は無事でした。「虎の力で無事だったのかもしれない」と小野寺さんは言います。

アメリカのモース高校のシンボルが虎であることが縁で、生徒たちから激励の手紙や千羽鶴が寄贈されました。その際、感謝の思いを込めて虎舞を演じたのが、震災後最初の活動でした。「仮設にすら住めていない人もいたし、まだまだ大変な状況の中で演舞することに難色もありましたが、このようなときだからこそ、虎舞を通して前向きな気持ちにつながればと言う人もいて、活動することを決めました」。その後、全国のイベントなどで虎舞を披露していく中で、メンバーの結束が強まりました。復興祈願はもちろん、虎舞に関わった全国の人たちの幸福を願い演舞しています。

「昔は地区の長男だけにしか伝承していなかったのですが、現在は子どもや、そのお母さんにも参加してもらい活動は広がっています。中学・高校になると部活動で忙しく離れていく子が多かったのですが、震災を機に郷土への思いや虎舞の楽しさを伝えたいと、行事の開催時には戻って活動してくれる子たちもいます。離れていても郷土芸能を通じてつながっているんです。今後も保存と継承を担っていきたいと思っています」。

気仙沼市指定無形民俗文化財
浪板虎舞保存会　会長
小野寺（おのでら） 優一（ゆういち） さん

毎年1月に初舞奉納をする飯綱神社

©河北新報社

飯綱神社に奉納された勇壮な浪板虎舞

内から支えるマンパワー じもと
KESENNUMA
お助け 県外からのサポートパワー

NOW IS KESENNUMA NOW IS KESENNUMA NOW IS KESENNUMA NOW IS KESENNUMA NOW IS KESENNUMA NOW IS KESENNUMA NOW IS KESENNUMA NOW IS KESENNUMA NOW IS KESENNUMA NOW IS KESENNUMA

VOICE of KEY PERSON
貴方がいれば大丈夫
02
この人がこの町を盛り上げてます！

都市計画は街づくりの基本少しでも復興の力になりたい

気仙沼市建設部都市計画課
加藤（かとう） 和良（かずよし） さん
平成27年4月から
東京都江戸川区より気仙沼市に派遣

「魚がとても美味しい」と加藤さん。

気仙沼は内湾がとても美しい。

都市計画課で復興交付金の申請業務に携わる毎日

加藤和良さんは、平成27年4月に東京都江戸川区から派遣職員としてやってきました。仕事は、復興交付金制度の申請事業の資料作成や会計と、都市計画課内の庶務に携わっています。

「復興交付金の申請資料が適正になされているか、細かい確認の作業が多いですね」と話す加藤さん。「特に金額の数字関係は、細かく入念にチェックし間違いがないよう気を使っています」。

加藤さんが気仙沼で業務するのは2回目。平成23年11月に仮設住宅の入居支援で2週間、派遣職員として業務に携わりました。「宿舎になっていた民宿で、宿の方々の心遣いの言葉がうれしかったです」。

業務で書類説明のため各家庭を回り住民の方たちと触れ合う機会があった時に「気仙沼の人たちは温かい方が多いと感じました。それがきっかけで、個人的に旅行したり、ボランティアに参加したり、気仙沼によく来ていました。娘も一緒に来たこともあるんですよ。被災地を見てもらいたかったし、復興状況も知ってもらいたかったんです」。被災地を目の当たりにし、復興に向けて少しでも力になりたいと強く思っていた時、派遣の内示が出ました。

「都市計画は街づくりの基本です。これからもっと復興が加速し、建物の建設が進みます。住民のみなさんがソフト面を作るのはこれからですが、笑顔で住んでもらいたいですね。私自身も、街並みができつつあるのが楽しみです」。

江戸川区からの派遣職員は現在13人。都市計画課内でも約半数がほかの地域からの派遣職員です。「気仙沼での経験はとても勉強になっています。災害がほかの地域で起こったときにも、この経験を活かしていけると思っています。今後のためにも特に若い職員の人たちにも経験してもらいたいですね」。気仙沼での業務は復興の力になるとともに、今後起こりうる災害に対処できる力を培うことにつながっています。

Newspaper 気仙沼市 Pick-Up

震災当時と今の河北新報記事から見る、復興の歩み。

2011.3.13. 記者が見た悪夢の景色

「全部なくなった」

見えぬ恐怖 おびえる住民

胸まで水 死を覚悟

悪夢の夜 温かさ知る

追る波 町をのむ

平成23年3月13日の記事には、自ら津波にのまれ死を覚悟した記者が見た、震災当日と翌日の気仙沼市の様子が掲載されました。「一つの街の区画がそっくり焼け焦げていた。それがかつて何であったか不明のがれきの山が、車道をふさいでいた。乗用車や保冷車が好き放題に転がり、土砂に埋もれ、川に突っ込んでいた。」と淡々とつづられる文章から、美しい景色と水産のまち・気仙沼市が、いかに無残な姿になっていたのかが伝わります。

甚大な津波被害を受けた気仙沼市。大津波は想定されていた浸水域をはるかに超えて内陸へと進み、街は壊滅的な状態となりました。

2016.6. 気仙沼・内湾に活気を！

18年4月 新商業施設開業へ

気仙沼・内湾 活気再び

空洞化歯止め 観光拠点に

18年4月 新商業施設開業へ

気仙沼の港・食・文化を体感

菅原昭彦社長に聞く

気仙沼市内湾地区に計画されている新商業施設のニュースが掲載された、平成28年9月9日の記事。災害公営住宅と店舗を組み合わせた複合施設が相次いで完成するなど、にぎわい再生の取り組みを進める内湾地区に、ウォーターフロント施設や木造平屋のスローフードマーケット等を建て、新たな観光商業拠点にするという計画が紹介されました。

「港町を体感できるエリアにし、市内外から人を呼び込むゲートウエー（玄関）として観光復興につなげたい」と意気込むのは、計画を進めるまちづくり会社「気仙沼地域開発」。開業予定の平成30年4月に向けて、準備が進められています。

© 河北新報社　※記事の詳細はみやぎ復興情報ポータルサイトに掲載します。

ARで見る定点観測

look at Miyagi

現在の気仙沼市

撮影地点 八日町

（安波山からの眺め）

震災前の気仙沼市

気仙沼市では、地震・津波被害のみならず、倒壊した燃料タンクから流れ出した重油に引火し、夜通し、広範囲に渡って大火災が発生しました。この震災により1200人の尊い命が失われました。

現在は、防災集団移転、災害公営住宅の整備が進み、今後は水産加工工場などの新規設備の稼働が期待されています。

被災直後の気仙沼市

無料アプリ「ココアル2」を起動し、上記の被災直後の写真にかざすと、現在（平成28年10月）の気仙沼市の様子がご覧いただけます。

COCOAR2のダウンロードは「Google play」「App Store」から

COCOAR2に対応していない端末もございます。

（写真提供：気仙沼市）

無料アプリ「ココアル2」をダウンロードしてご覧ください。

TOPICS 1

NOW IS / NEWS in MIYAGI

復興や防災にまつわるニュースをお知らせします。

NEWS 01 宮城県北部被災者転居支援センター

10月から、新たに登米市内に宮城県北部被災者転居支援センターを開設しています。

本支援センターでは、応急仮設住宅の供与期間終了に向けて、住宅再建方法が未定の入居者に対し、市町村から提供される入居者情報などに基づき戸別訪問による相談支援を行うほか、各世帯に応じた福祉サービス等の紹介を行っています。

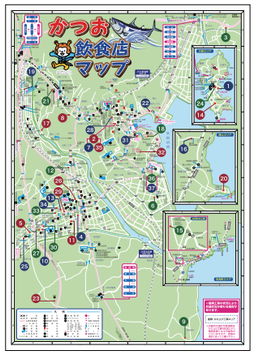
ご利用を希望される方は、被災当時お住まいの市町村の被災者支援担当課等へご相談ください。

問.県震災援護室
☎.022-211-3257
http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/engo/

NEWS 02 「生鮮かつおプロモーション事業」実施

気仙沼市魚市場の主要水揚げ魚種の一つである生鮮かつおは、震災をのりこえ、昨年までに19年連続水揚げ日本一を達成。

平成28年7月7日に「気仙沼市生鮮かつおプロモーション事業実行委員会」を設立し、かつおの魅力をPRし認知度向上につなげる事業を実施。「市内かつお取扱い飲食店マップ」や都市圏でのPRイベントなどを行っています。



問.気仙沼市生鮮かつおプロモーション事業実行委員会事務局（気仙沼市役所水産課内）
☎.0226-22-6600

NEWS 03 気仙沼の味覚を堪能！「唐桑ごっつぉーフェア」

『ごっつぉー』とは、気仙沼地域の方言で「ごちそう」のこと。メイン会場では、地域の方々が作る様々な「ごっつぉー」や地場産品のお買い物ができるほか、復旧した宿舞根（しゅくもうね）漁港では海産物直売会が行われ、新鮮なカキやホタテなどを販売します。

2つの会場でお腹いっぱい「ごっつぉー」を堪能してください。

日時／12月4日（日）
場所／第1会場：気仙沼市立唐桑小学校 校庭
（気仙沼市唐桑町明戸208-6）
時間：午前10時～14時
第2会場：海産物直売所宿舞根漁港水産物加工出荷センター
（気仙沼市唐桑町鮪立302）
時間：9時～13時（売り切れ次第終了）
問.リアス牡蠣まつり唐桑実行委員会（唐桑町観光協会内）
☎.0226-32-3029
http://www.karakuwa.com/

NEWS 04 気仙沼さかなの駅「5周年創業祭」

震災の年、12月からいち早く商業施設としてオープンした「気仙沼さかなの駅」。辛く苦しい過去から明るい未来へ乗り換える「駅」になればという思いから、鮮魚店をはじめ青果店、酒店等8店舗が、地酒やお土産品も並ぶ「市民の台所」として営業しています。

オープン5周年を記念して笑顔になるイベントや特売を予定しています。詳細はお問い合わせください。

日時／12月10日（土）、11日（日）
午前8時30分～
場所／気仙沼さかなの駅
（気仙沼市田中前2-12-3）
問.気仙沼さかなの駅協同組合
☎.0226-21-1231
http://sakananoeki.com/

TOPICS 2

NOW IS./ MIYAGI MEDIA INFORMATION

今の被災地をリアルタイムで

ＳＮＳでは、取材チームが見た被災地のいまを発信しています。Facebook、Instagram、Twitterでご覧ください。皆さまからの投稿もお待ちしています。ハッシュタグ「#fukkomiyagi」をつけて、撮影した画像をお寄せください。

@安波山の竜（気仙沼市）[2016/10/15]

各SNSの検索窓で　いまを発信！復興みやぎ　検索

復興情報をお伝えします

宮城の復興情報を発信する、「みやぎ復興情報ポータルサイト」を公開しています。復興に関するお知らせや復興の進捗状況、NOW IS.取材チームによるブログで情報を発信します。

みやぎ復興情報ポータルサイト　http://www.fukkomiyagi.jp

TOPICS 3

宮城の「いま」を伝えるパネルを制作しました。

パネルの貸し出しを行っています。

全国の皆さまに宮城県の「いま」をお伝えするため、展示用のパネルを制作しました。
A1 サイズのパネル、全 10 枚からなり、「宮城は現在（いま）も現実（いま）に立ち向かう。」を
コンセプトに、インタビューと、復興状況を紹介したデータの二部構成です。
パネルは貸し出しを行っておりますので、ご希望の方は、下記問合せ先まで電話、FAX、メールにて連絡願います。

問.宮城県 震災復興本部（事務局：震災復興推進課）
〒980-8570 宮城県仙台市青葉区本町3丁目8番1号 ☎.022-211-2443 / Fax : 022-211-2493 email : fukusuif1@pref.miyagi.jp

STAFF'S VOiCE 取材こぼれ話

編集後記

ポスター＆パネルの撮影でも訪れた気仙沼市内湾地区に、今回も行ってきました。フェリーが行き交う港の向こうには、山の斜面に建つ家々があり、ずっと見ていたくなるような、不思議な魅力がある場所です。しかも、海から少し車を走らせれば、豊かな里山が待っています。本誌2ページの遠景を撮影した「安波山（あんばさん）」では、散策路が整備され、ちょっとしたトレッキングを楽しめます。取材時はちょうどマツタケが旬。帰りに立ち寄った「さかなの駅」で袋いっぱい、とれたてを（お手頃価格で）買いました。

ひらいたマツタケは、いい香りです

宮城県の東日本大震災死者数（関連死含む）10,553人 | 行方不明者数 1,235人　平成28年9月30日現在 宮城県危機対策課調べ

NOW IS. 防災

もしものときにあなたを守る、
防災のヒントを、
12回にわたって紹介します。

Theme 7 住宅の確保

**予期せぬ大災害によって、自宅が住めない状態になることも。
もしもの時に、どんな住まいの選択肢があるのか―。
それぞれのメリット・デメリットを知った上で、
自分にとって最適な選択ができるように考えておきましょう。**

応急仮設住宅

**コミュニティが生まれ、
近所付き合いがしやすい**

断熱や音漏れなどの課題はありますが、木造の応急仮設住宅など、より住み心地に配慮したものもあります。住民全員が被災者なので新しいコミュニティが生まれやすく、近所付き合いがしやすい環境でもあります。

借り上げ仮設住宅

**公営住宅やアパートなど
一般的な住宅を選べる！**

公営住宅や民間賃貸住宅の空き室を利用するため、通勤・通学の利便性や住み心地を考えた一般的な住宅を選べるメリットも。一方、被災者が分散するため、支援情報が入りづらいというデメリットもあります。

転居

**住み心地や立地など
希望に沿って選びやすい**

特に新築する場合、費用や時間の問題はありますが、快適な住空間で新しい生活をスタートできることが転居の最大のメリット。親子の同居や転勤・転職などの可能性も考えておくことが大切です。

取材協力：東北大学災害科学国際研究所　岩田 司 教授

防災コラム Vol.7

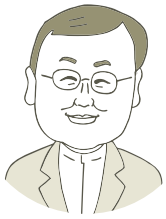
★仮設住宅を知っておこう！

★家族で話し合っておこう！

★職場・教育・病院を基準に！

意外と知らない仮設住宅のこと。制度・種類・メリット・デメリットなどを知った上で、自宅が住めない状態になった時に転居を含めどういう選択肢が考えられるのか、家族で話し合っておきましょう。住まいを選ぶ基準は「職場・教育・病院」。この 3 つを軸に話し合っておくことで、もしもの時にも落ち着いて次の住まいを探すことができます。

岩田 司 教授
東北大学災害科学国際研究所



地域・都市再生研究部門都市再生計画技術分野に所属。災害公営住宅建設促進支援や、木造応急仮設住宅の建設、地域復興住宅の建設にも参画している。

NOW IS. vol.7 ナウイズ
昨年度までの「みやぎ復興プレス」をリニューアルしました。

発行：平成28年11月11日 宮城県震災復興本部（事務局：震災復興推進課）
〒980-8570 宮城県仙台市青葉区本町3丁目8番1号
Tel：022-211-2443　Fax：022-211-2493
『復興情報発信プロジェクト NOW IS.』は、宮城の復興の「いま」を伝えるプロジェクトです。

宮城県
Miyagi Prefectural Government